

平成 25 年 5 月度県内産業景気動向調査結果

この調査結果は、中小企業庁の指定事業に基づいて設置された山口県内の情報連絡員 60 人に、本会が新たに選んだ 20 人を加えた 80 人の連絡員より業界動向を把握した結果です。

山口県内の「業界の景況（前年同月との比較）」は、悪いと感じている人が、4 月より減少している。しかしながら、円安の影響によるガソリンや原材料価格の値上がり等により、収益が圧迫されていると感じている業種の方も多く、今後は実体経済におけるアベノミクスによる景気浮揚を期待する声が多く聞かれた。

山口県の主要指標 DI 値（平成 25 年 5 月末現在）

※DI 値とは、前年同期に比べ「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値です。

業界の景況（〈好転〉－〈悪化〉＝〈DI 値〉）

前年同月比は、好転： 5.0% 悪化：27.5% DI 値：▲22.5% ポイント

売上高（〈増加〉－〈減少〉＝〈DI 値〉）









前年同月比は、増加： 16.3% 減少：33.8% DI 値：▲17.5% ポイント






収益状況（〈好転〉－〈悪化〉＝〈DI 値〉）


前年同月比は、好転： 5.0% 悪化：36.3% DI 値：▲31.3% ポイント

山口県の業種別 DI 値(業界の景況)（平成 25 年 5 月末現在）

 30 以上	 30 未満～ 10 以上	 10 未満～ ▲10 以上	 ▲10 未満～ ▲29 以上	 ▲30 以下
--	--	---	--	---

食料品	織 維 工 業	木材・ 木製品	印 刷	窯業・ 土石製品	一 般 機 器	輸 送 機 器	全 製 造 業
▲42.9	0.0	▲33.3	▲100.0	▲16.6	0.0	▲50.0	▲24.2
							

卸売業	小売業	商店街	サービ ス 業	建設業	運輸業	全 非 製造業
0.0	▲44.4	▲25.0	▲8.4	0.0	▲57.1	▲21.2
						

全 体
▲22.5


特記事項（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）

食料品	菓子博で販売ブースを設けた3社は、広島を除く中国4県の中で1番の売上であった。円安の影響で、原材料（チョコレート・砂糖・小麦粉など）の値上げが進んでいるが、全体的な商品への価格転嫁は未だ聞かない。リピーターのあるスタンダード商品よりも、新商品や季節商品への価格転嫁が増えている。	パン・菓子製造業
	4月は売上+0.4%と前年並み。5月は21日現在で、ほぼ昨年同様の売上推移。GW期間中は天候に恵まれ+3.7%と過去最高の期間売上をマーク。5/14~19 首都圏：紀ノ国屋8店舗での萩市フェアを実施し、好評であった。H24年度の決算もほぼ確定、自店舗売りが減少、都市部業務用出荷が増えたため、利益率が0.9%ダウンし、税引前利益も減少した。	水産食料品製造業 萩市
	急激な円安により主要原料が値上がり、大変厳しい状況。その他の副原料や資材などの値上げが予測され先行きが不安である。一部製品の値上げを検討するが、販売面で不安。	水産食料品製造業 下関市
	T P Pの動向によっては、農村における耕作放棄地の増加をまねく恐れがあり、農村現場には無力感が漂っている。	精穀・製粉業
繊維工業	景気向上の気配を感じない。	帆布製品製造業
	下関地区で1社倒産。その後、規模を縮小して、社員が再稼働させている。このことは、現状は厳しいが、将来的には展望が開けていることを示唆していると考えられる。	外衣・シャツ製造業 山口市
	ゴールデンウィーク明けに受注が減少したが、なんとか6月の生産予定は埋まった。ただ、仕事の内容が複雑になってきており、生産性が落ちてきている。	外衣・シャツ製造業 下関市
木材・木製品	「木材利用ポイント事業」の追い風で需要拡大の動きはあるが、ここに来て売上が伸び悩んでいる。消費税アップ前の駆け込み需要に期待している。	製材業・木製品製造業 山口市
	引き合いも増え、荷動きも増えているが、価格等の条件面は厳しく、収益の好転までには至っていない。	製材業・木製品製造業 下関市
印刷	デジタル化による需要の減少等は予測出来ており、業界としても努力を続けているが、すぐに設備投資をすることも難しく、身動きが取れない状況である。	印刷 下関市
	6月より用紙の仕入価格が値上げされるが、印刷物の価格に転嫁できるか否かは疑問。	印刷 山口市

窯業・土石製品	対前年同月比は、骨材145%、路盤材82%、再生材115%、全体では121%の出荷量となっている。昨年度に比べると出荷量は多くなっているが、景気の良さを実感するほどではない。建設資材調査会の調査協力も年に2回行っているが、単価の値上げは見込めないため（数年の間変動なし）調査協力をしない話も会議で出てきている。	砕石製造業
	出荷量は、前月比では88%と減少しているが、前年同月比では104%と増加している。公共事業関連予算の増加に伴う出荷量の具体的な動きは、今のところない。セメントなど原材料値上げの動きがあるが、生コン価格は総じて安定しており、現時点で、セメント・骨材等の資材調達に、特に問題はない。	生コンクリート製造業
一般機器	為替や株式相場が乱高下している中、雇用調整しているところもあり、景況感はまだ悪い。	一般機械器具製造業 周南市
	公共工事では、前年度の2月、3月に提出した見積りよりも、5月に入って円安の影響によるアルミ等の材料費上昇の関係で入札に参加し難しくなっており、仕事量は有るが、収益に繋がらないでいる。また、地元の自動車業界の好調が、地元の下請け中小企業等に良い影響を及ぼしてくるには、まだ時間がかかりそうである。	一般機械器具製造業 防府市
	企業の受注に若干の増加が見られるとともに、雇用に若干の前向きな姿勢が見える。	一般機械器具製造業 宇部市
	売上高は微増している。	
	5月の金型製造関係の受注・生産状況はほぼ予定通り。大物の金型生産が入り、機械の稼働率が先月同様に上がって来ており、来月以降も今月同様に稼働すると思われる。今のところ現状維持が出来そうであるが、価格・納期は相変わらず厳しいのが実情で、今後の動きに不安があり、アベノミクス効果が中小企業に恩恵が来るのはまだまだ先になりそうである。成形製品では、民生部品関係の受注は少し動きが出てきている感じではあるが、自動車関係の受注は減少したまま推移している。	特殊産業用機械製造業
輸送機器	車両、精密加工、プラント部門とも、新たな景気上昇の物件は見当たらないし、アベノミクス効果は感じられない。むしろ、原材料の値上がりで厳しい原価低減要請が脅威ととらえている。	鉄道車両・同部品製造業
卸売業	各業種とも売上高（受注量）はやや増加傾向にあるものの、燃料や資材（商品）が値上がり、収益悪化や厳しい状況となっている。輸出産業・大手企業は、円安・株高で景気回復の傾向にあるものの、中小企業の収益は厳しい。	各種商品卸売業 周南市

	円安、長期金利の上昇等により、資金調達が厳しい。	各種商品卸売業 山口市
	給油価格が、約4円値下がりしており経費的にメリットとなっている。	各種商品卸売業 下関市
小売業	組合の活動資金は、メーカーと協力しての健康食品等の売上で、この売上数値がバロメーターになり、組合活動資金の獲得に役立っている。今年も夏季と冬季のコンテストに全力を注ぐ予定で、今年も、女性会の活動も推進していくつもりである。	化粧品小売業
	岩国市内中心市街地は、4月オープンの商業施設を中心に商業集積し、郊外の中小小売業者はますます苦戦をしている。不動産業では、土地の動きが活発化して来ており、住宅建設の需要が出ている。飲食店では、お客の増員傾向がある。	各種商品小売業 岩国市
	周南市中心市街地活性化基本計画が内閣総理大臣より認定を受けた。また、5月27日、中心市街地徳山駅南北自由通路のうち、JR徳山駅跨線橋が開通、運用開始となった。	各種商品小売業 周南市
	4月に引続き売上高が微増。米屋町商店街のアーケード改修で街が明るくなり、人出も多少増えた観がある。	各種商品小売業 山口市
	依然として、売上・客数ともに前年を下回り厳しい状況が続いている。	各種商品小売業 長門市
商店街	前月に比べて人通りが増えたように見え、各店舗にも来客者があるが、売上や収益は今一つである。	山口市
	円安による影響は今のところないが、今後、海外生産品の値上げがあっても、販売価格の値上げが出来ない物もあり、利益圧縮の影響がでると予想される。商店街ではないが、近隣に外食チェーンの「すき家」がオープンした。	萩市
サービス業	アベノミクス効果か、日本経済はようやく上昇気味に見えるが、理容業界までこの流れは届いていない。	理容業
	県内の自動車保有台数が3月末で1,062,296台となり、対前年比で0.5%増加となった。前年9月までのエコカー購入補助金の効果で増加したと考えられるが、高齢化や人口減少に伴う減少基調は続いており、依然として県内の自動車業界を取り巻く環境は厳しい状況にある。	自動車整備業
	自動車販売が落ち込み、自動車関連用品への設備投資も落ち着いてきているので、少し悪化している。	
	先月と状況変わらず、低いところで安定している。コンサルタント的な動きで、お客様への提案を中心に営業活動をしているが、まだ成果があがってきていない。	情報サービス業

	<p>「出雲・東京に多くの方が遊びに行っているようすで、思いがけずゴールデンウィークは苦戦。5月5日が伸び悩み、直前まで予約が埋まらない状況であった。」などかなり厳しい状況との声が多い。ただ前年の状況がかなり悪かったので、前年よりは集客が上回った施設が多い。良い話題としては岩国空港開港の影響で、関東からのお客様が下関に来ている。お客様の財布の紐は緩んできたもようで、お土産等の出費が増えている。世の中の状況も一喜一憂であるが、憂いが弱まっている感じがする。</p>	旅館業 下関市
	<p>4月に温泉成分の記者発表を実施して以来、増加傾向にあり、大型連休には前年に比べ大幅な入浴者増があった。5月の入浴者は前年比18.6%増加し、3,000人強の入浴者数となった。しかし、旅館街の宿泊者においては依然厳しい状況となり、イベント関係、家族入浴等の日帰り客の増加が主であった。</p>	旅館業 長門市
	<p>県内全般では、「景況変わらず」と言った印象。地区別では、萩地区では、特産『たまげなす』を食材にして、新しい特選料理を官民協働で開発中。小郡地区では、新山口駅ステーションビルの改築を機会に、新しい顧客開拓が期待できそうである。それぞれの地区で工夫が見られるが、速効性はなく、当面はイベントと組み合わせ、各所、地道な営業を続けることとなりそうである。</p>	飲食業
建設業	<p>中電への工事申請は、4月267件（当支部分232件）、前年同月376件（同317件）。太陽光発電の申請3件、オール電化の申請34件（前年は太陽光23件、オール電化14件）。LED街路灯への切替・新設申請は149件（前年160件）。再生エネルギー買取の優遇に関わる申請期限が平成25年3月31日までであったので、太陽光発電の申請は激減し、一方で年度替わりで、自治会のLED街路灯への切替・新設の申請が大幅に増加した。</p>	電気工事業
	<p>昨年度の公共工事のうち土木工事の受注は、前年同月比6%の減少となったが、補正予算に伴う発注は増加している。民間工事では、家屋解体工事はかなり出ており、いずれも単価は低いものの、今後を期待する。</p>	土木工事業 柳井市
	<p>当組合の公共工事受注は0円であった。</p>	土木工事業 周南市
	<p>25年5月の受注高は、対前年同月比389%。今年度の受注高の累計は、対前年比269%。</p>	土木工事業 萩市

運輸業	<p>輸送関係は、毎年のことではあるが、大型連休で大手企業の稼働が7日からとなり、輸送量は約60%となり、鉄鋼素材もやや減少し、輸出関連も減少している。飲料関係輸送がやや増加傾向ではあるものの、対前年同月比では22.5%の減少の状態である。円安による油価格の上昇で一段と中小輸送業者にとって経営の圧迫感が高まっている。油関係は0.8円の値上げ。</p>	一般貨物自動車運送業 下松市
	<p>4月・5月と輸送稼働は改善しつつあるが、目立ったほどの数値は残せなかった。一方、燃料価格は高止まりの状態、前年同月比で4～5%、一昨年の同月比では15%強の値上がりとなっている。</p>	一般貨物自動車運送業 防府市
	<p>物流業については、荷動きの減少が続く中、分捕り合戦が活発化している。従来どおりの物流だけのサービスでは、荷主は満足しなくなり、総合的な物流コストの削減への貢献や、サービス性の向上・品質・精度がより求められつつある。</p>	一般貨物自動車運送業 宇部市
	<p>新聞やテレビでは、国内は、円安・株価・大企業の景気上昇の話ばかりで、対国外は、北朝鮮等の話ばかりである。当組合の第44回決算は創業以来の最悪の決算となったが、組合員の努力と協力で乗り越えることができた。</p>	一般貨物自動車運送業 下関市
	<p>タクシーチケットの取扱い金額は、前年比▲9.7%（平成25年4月1日～5月20日分）となり、昨年6月以降の大幅な減少に歯止めがかかっていない。4月1日～30日分は▲6.7%と減少、5月1日～20日分は▲9.7%とまだまだ大幅な減少が続いている。当組合の取扱いは、光市、下松市、周南市、防府市の地域であるが、防府市はほぼ前年同月並みの取扱いになったが、周南地区が大幅に減少している状況。日中の病院通い等、現金利用客の減少はそれほどではないようだが、コンビニートの大企業、夜間の飲食店関係が激減しており、タクシー事業者も、歩合給で働く乗務員も、非常に厳しい状況におかれている。燃料のLPGについては、CP（通告価格）と為替に連動して変動するが、CPは大幅に下降しているが、為替が円安になっているため、5月のタクシー会社の購入単価は4月より少ししか下がっておらず、前年5月と同額で高止まりの状態である。アベノミクス効果で輸出関連産業や大都市圏では景気が回復しているようだが、地方の個人消費は一向に回復しているように思われない。</p>	一般旅客自動車運送業